



Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。 <http://www.amsl.or.jp>

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



●赤ちゃんをうむサンゴ ー幼生保育型サンゴー

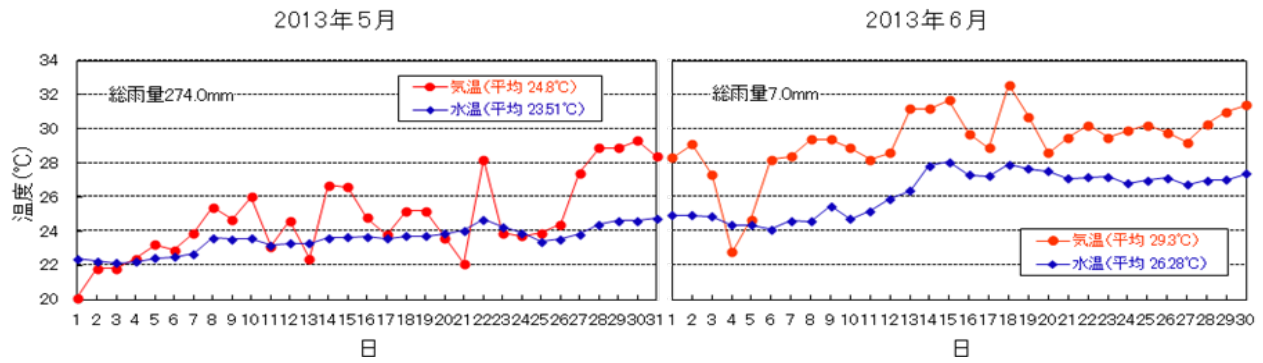
今年の5月の最初の1週間の平均海水温は22.4℃と低かったのですが、ちゃんとサンゴが産卵するのか心配でしたが、少しずつあたたかくなって最後の1週間の平均値は24.2℃にまで上がり、そのおかげか、マジヤノハマでは満月から6日後の5月31日にミドリイシ類が産卵しました。その後、6月中旬以降はぐんぐん海水温が上昇し、6月終わりの1週間の平均値は27.0℃でした。そのわりには遅かったのですが、満月から5日後の6月28日にミドリイシ（前月の残り）が産卵しました（ちなみに海水温はその後にも上昇していて、7月に入ってから連日28.5℃前後です）。阿嘉小学校のサンゴ産卵観察会も無事に終わったようですし、サンゴから赤やピンクのバンドルが産み出されるのを見た人も多いと思います。最近は、こうして実際に観察したり、テレビや本などで紹介されたりすることも多いので、

サンゴが卵を産むことを知っている人は多いと思います。産み出されたバンドル（卵と精子のかたまり）は、海面で卵と精子がバラバラになり、ほかの同種のサンゴから産み出された精子や卵と受精します。受精卵は、波間をただよいながらやがてサンゴの赤ちゃんのプラヌラ幼生になって、新たな場所でサンゴへと姿を変えて増えていきます。これがサンゴの増え方だと思っている人が多いかもしれませんが、実はサンゴの増え方は卵を産むことだけではありません。今回は、もう1つのサンゴの増え方を紹介します。

もう1つの増え方をするサンゴの代表は、ハナヤサイサンゴ（冒頭の写真）でしょう。このサンゴは、世界中のさんご礁にいて、もちろん慶良間の海にもたくさんいます。このサンゴは卵を産みません。では、どうやって増えるかというと、親サンゴから、卵ではなくプラヌラ幼生が産み出されます。言ってみれば、赤ちゃんを産むサンゴなのです。このほか、ニオウミドリイシの仲間やアワサンゴの仲間、アオサンゴなどいくつかの幼生を産むサンゴで、体内で幼生まで育てて産み出すことから「幼生保育型」のサンゴと呼ばれます。それに対して、卵を産むサンゴは、卵や精子を体外に放出することから「放卵放精型」サンゴと呼ばれます。

幼生保育型のサンゴと放卵放精型のものとの大きな違いは、幼生の散らばる範囲と考えられています。放卵放精型のミド

定点観測



リイシ類の場合、親サンゴから産み出された卵は受精して3日ほどで幼生になりますが、その頃はまだ海底にくっついてサンゴになる能力はなく、その能力をもつようになるのはさらに1~1.5日後、つまり受精(産卵)から4~4.5日後です。そして、7~10日後くらいまでは、サンゴになる能力をもっていると考えられます。その間、幼生(正確には、卵から幼生に発達する間は‘胚’と呼ばれます)は潮に流され、遠くのさんご礁にまでたどり着きます。もう20年ほど前に研究所で調べた結果からは、慶良間で生まれた幼生が沖縄本島にたどり着く可能性があると考えられました(興味のある人は、アムスルだより No.8 をご覧ください)。その後の研究でも同じような結論になり、現在は慶良間は沖縄本島のサンゴのふるさとして大切な場所と考えられています。このように放卵放精型のサンゴは遠くまでたどり着くことができ、すんでいる範囲を大きく広げることができますが、幼生保育型の場合にはすでに発達した幼生が産まれるわけですから、それほど遠くに散らばることはありません。場合によっては、産まれて数時間で海底についてサンゴになるので、親サンゴのすぐそばでくっつくこととなります。これでは遠くに散らばって生息範囲を広げることができません。けれども、その分だけ散らばっている間に食べられたり傷ついたりして死んでしまう危険は減ります。また、

遠くに行っても、必ずしも暮らしやすい場所にたどり着けるとは限らないので、親サンゴが暮らしている良い環境の場所にくっついた方が、よほど生き残りやすいでしょう。

生息範囲を広げることを選ぶか、より生き残り易いほうを選ぶか、サンゴはそれぞれの作戦に基づいて増え方を決めてきたのでしょう。ちなみに、サンゴには、時には卵を産み、別の時には幼生を出すという、両方の増え方ができる種もあります。未来に命をつなぐために、サンゴたちもいろいろ知恵をしぼっているのです。

● 阿嘉島の海より

7月7日、夏真っ盛りの阿嘉島では、阿嘉幼・小・中学校の大運動会が行われました。学校の運動会とはいえ、島民みんなが協力し参加する小さな島ならではの運動会です。毎年、となりの慶留間小中学校のみんなも応援に駆けつけてくれます。今年は特別に暑い日となりましたが、みんな一生懸命に走り、楽しく踊り、元気に歌っていました。特に、阿嘉校ならではの輪車の演技はとてすばらしく、一致団結した団体演技は日ごろの練習の成果が発揮されたみごとなできでした。

